

令和4年度 特別の教育課程の編成等の方針について

糸満市立糸満小学校

1. 新設教科の名称

海人(うみんちゅ)科

2. 新設教科の目標及び内容

これからの時代において必要となる、グローバル的な視野を最大限に生かすには、自分の地域を知ることが不可欠である。地域素材としての「海」文化を活用し、1～2年生は生活科から10時間、また3年生は～6年生は総合的な学習の時間から20時間削減し、「海人(うみんちゅ)科」を1～2年生は10時間、3～6年生は20時間新設する。伝統的なサバニ漕ぎも含め、体験的な学習を通して、過去から現在・未来へと将来を見つめるフィルターとしての意義を「海」に見つけたい。また、学習全体を通して、新たな「海」に対する課題とつなぎ合わせ、世界規模の課題を考え、学ぶことで、様々な課題に立ち向かう生徒の資質・能力を育むための学習につなげる。

3. 内容を削減した教科等で削減した内容の補完について

学校独自に取り入れた海洋体験学習及び地域資源を活用した探究的な学習の過程を系統的に実施する。本校に身近な報得川の探求活動を取り入れ身近な生きものやその環境保全に携わる人達に触れ合うことを通して、SDGsの視点から持続可能な海洋資源の大切さに触れさせる。また、地域の伝統的な行事である糸満ハーレーの学習を行うことで地元を知り、地元に着愛を持つ子ども達を育成できるよう工夫して取り組む。削減した教科内容との関連を意識した取組を「海人科」で実施する。

4. 地域や学校の特色を活かして行う教育について

糸満は昔から海人のまちと呼ばれ、伝統舟艇「サバニ」を通し、生計を支えていた歴史がある。一方で近代化とともに漁業で生計を立てる人々の割合が減り、同時に子供たちの海に関わる体験活動の機会も減り、海洋文化への理解や関心は低下してきている。

総合的な学習の時間や各教科の関連ある単元に替えて「海人科」を新設し、体験活動および課題解決的な学習を継続することを通して、地域のことを自分事として見つめ、主体的・対話的で深い学びへと誘いたい。地元の「海」というキーワードをフィルターにして、成果・課題等と向き合いながら地球規模で物事を考える必要がある。地域や社会の発展に貢献でき、誇りの持てる人材の育成を目指したい。